



「福祉制度要覧」

社会資源研究会 編

本書は題名の示す如く、福祉制度の手引書である。心身障害者（児）福祉制度、老人福祉制度、社会保険制度、そして関係機関および法外施設等の4部門から構成されている。編集の意図は、あくまで「誰にでもわかるように」ということで、現行の福祉制度を一見して理解できるように解説している。

我々の関係分野である心身障害者（児）福祉制度をみると、次のような内容に分れている。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 手帳の制度 | 2. 医療費の助成等 |
| 3. 教育 | 4. 施設 |
| 5. 職業 | 6. 税金の控除・免除 |
| 7. 年金・手当等 | 8. 日常生活の援助 |
| 9. 料金の割引 | 10. 自動車 |
| 11. 添付資料 | 12. 関係団体 |

この要覧は、「サービス内容」「対象者」「手続きの方

法」の三点を主体とし、さらに個々の制度を活用する場合に留意すべき大事な箇所について「コメント」をつけている。

この種の便覧を、このようなまとめた形で世に出した「社会資源研究会」のケースワーカー諸氏の努力に感謝する。日常業務の中で理学療法士や作業療法士は、患者さん達から福祉制度のことをきかれることが多い。ケースワーカーがいなくて、自分で何とか答えざるを得ない場面も多い。こんな時にすぐ利用できる手引書として本書は最適であろう。関係施設も所在地、電話番号まで詳しい。但し東京都のみの施設であるので、今後全国的レベル利用できるようにしてもらおうと一層よい。

(B5, 398 頁, 社会資源研究会, ¥ 2,000, 1978)

※社会資源研究会：板橋区小茂根1-1-10 整肢療護園福祉相談所
(東京都心身障害者福祉センター 作業療法士 寺山久美子)

「ナースの表現技能」

千 名 裕 著

病院を一つの社会と考え、その中で、医療従事者一患者という人間関係をみるならば、一般社会での人間関係と異なった、非常に特殊な人間関係が存在することに気がつく。たとえば一般社会には、20代の女性が40代の女性に話す話し方、20代の女性が50代の男性に接する接し方がある。その訳は、40年、50年の人生が20年の人生よりも重く、それなりに尊厳を持っている、ということを経験者が認めるからだろう。

ところが病院という社会では、患者の年齢、性、経歴等の、個々人にとって非常に具体的なものはおうおうにして軽く考えられ、疾病、臨床症状等の一般的なものに注意が払われがちである。医療従事者は、ともすれば後者への対応で終始する場合が多く、一方患者は、臨床症状もさることながら、具体的な一個人として接して欲しいという気持を持っている。

医療従事者は、疾病、臨床症状一医療技術のレベルで

対応し、患者は、疾病+個人一言動（言葉、態度）のレベルでの接し方を医療従事者に望む。このような互いのズレに気づかないまま人間関係が維持されるからこそ、「ナースのための表現技能」という本が必要となってくるのであろう。

著者千名裕氏は、言論科学振興協会に属し、言葉という非常に抽象的なしるものに取り組んでおり、また肺葉切除等の長い闘病生活で、今述べてきた人間関係を我々と反対の立場に身を置いて観察してきた。そして以上2つの経験から、看護学院、看護婦研修会の講師を通じて、断えず医療従事者と接し、病院の内容に通じている。そのために、全くの部外者にも当事者にも見えない面を描き出して、数多くの考える材料を提供している。

(A5, 362頁, ¥1300, 1977年, メディカル・フレンド社刊)

(厚生年金高知リハビリテーション病院 理学療法士

沖 廣剛)